

事例 7

ほ場整備を契機に中山間に誕生した農業生産法人

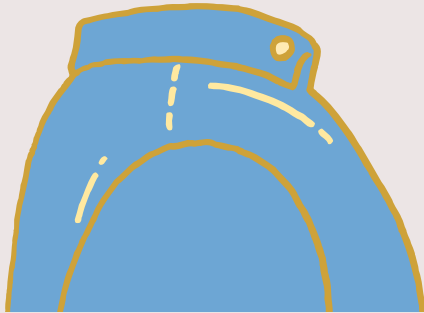
～ほ場整備事業(担い手育成型)「頓原上地区」～

とんぼら
[頓原町]



【地区の概要】

事業年度 平成7度～平成13年度
事業費 1,399,000千円
事業内容 区画整備 52.6 ha



本地区は、ほ場整備を契機として、平成9年に集落営農組合、機械共同利用組合が設立されました。

2年後の平成11年には再編され、特定農業生産法人 有限会社「ファーム木精(こだま)」が誕生しました。

「ファーム木精」は地区内の77%の農地を管理・営農しており、平成15年には95%を目標としています。



キャベツ収穫

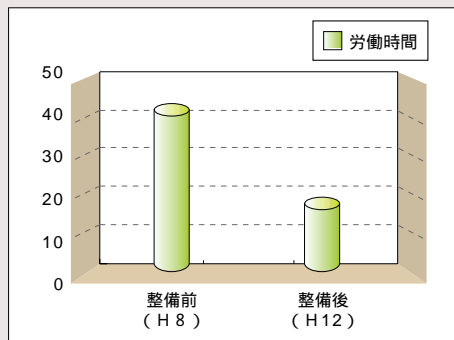


大豆播種

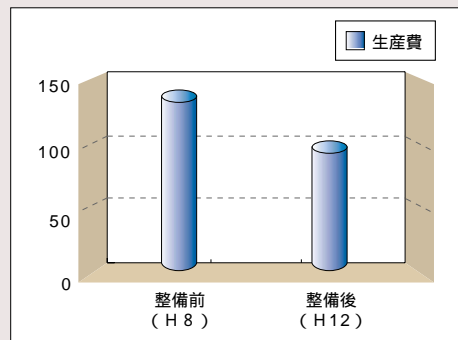
地区内を縦断する
県道の用地0.8ha
を、ほ場整備事業
で捻出。県道が独
自に用地を取得す
る場合より、約7百
万円(推定)の経費
が縮減されました。



労働時間の縮減(時間 / 10a)



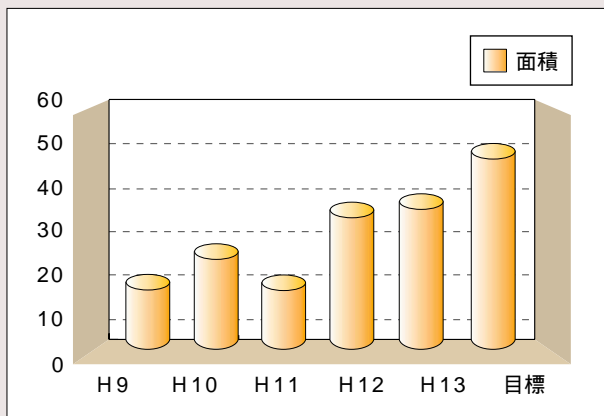
生産費の低減(千円 / 10a)



大豆防除

農地集積の推移

「ファーム木精」は地区内の農地の内50haを集積することを目標としています。



(有)ファーム木精

設立:平成11年11月29日

社員:32名

